

2021年5月23日
宮崎中部教会ペンテコステ礼拝
牧師 乾元美

ヨエル書 3 : 1~5
使徒言行録 2 : 1~13
「聖霊が降る」

<ペンテコステ>

今日は、ペンテコステです。ペンテコステ。ちょっと変わった言葉です。これはギリシャ語で、50番目、50日目という意味です。日本語だと、今日の聖書の2章1節に書いてあるように「五旬祭」と言います。ユダヤ人が「過越祭」という祭りの五十日後に行なう祭りなので、「ペンテコステ、五旬祭」と言うのです。ユダヤ人が旧約聖書の古い時代から、とても大切にしてきたお祭りです。

しかし、約2000年前のある年に、人類史上最大の、特別な出来事が起こりました。

それは、神さまに遣わされた救い主、神の御子イエスさまが、十字架に架かって死なれ、そして三日目に復活された出来事です。イエスさまは、すべての人の罪を贖い、すべての人に新しい命を与えるために、救いの御業を成し遂げられたのです。

こうして神さまは、世界のすべての人に、新しい契約を与えて下さいました。それは、イエスさまの救いの御業を信じる者すべてに、救いを与える、という契約です。イエスさまの十字架と復活の出来事によって、旧約聖書の時代は終わりを告げ、新しい契約の時代、新約聖書の時代が始まったのです。

そして、イエスさまの復活の日、イースターから、五十日後のこと。それがちょうどペンテコステ、五旬祭の日でした。

この時また、特別な出来事が起こりました。それが、「聖霊が降る」という出来事です。だから、「ペンテコステ」の日のことを、教会では「聖霊降臨日」とも言います。たくさん呼び方があって、すこしややこしいですね。

ペンテコステは、世間一般では、クリスマスやイースターほどメジャーではないかも知れませんが、わたしたちの教会においては、とても大切な日の一つです。なぜなら、このペンテコステの日は、「教会が誕生した日」とも言われるからです。

ところで、「教会」というのは、いったい何でしょうか。十字架の付いている建物のことでしょうか。確かに、キリスト教の人が礼拝する建物のことを「教会」と呼びます。

でも、この「教会」と訳された元のギリシア語は「エクレシア」という言葉で、本来は「召し集められる」という意味です。神さまが、救いのために召し集めて下さった人々の群れ。神さまに集められ、救われた人々の群れが、「教会」なのです。

ではどうして、聖霊が降ったペンテコステが、この「教会」の誕生日と言われるのでしょ

うか。わたしたちはそのことを、ペンテコステの出来事を通して、知りたいと思います。

<天に上げられたイエスさま>

さて、先程も言いましたように、ペンテコステは、神の独り子、救い主イエスさまが、すべての人の罪を赦すために十字架で死なれ、そして三日目に甦られたイースターの日から、五十日後の出来事です。

イースターの時、十字架に架けられて死なれたイエスさまは、確かに死者の中から復活させられました。復活というのは、仮死状態から蘇生したということではありません。また、体のない幽霊でもないですし、イエスさまを恋しがる弟子たちが思いを募らせて幻を見てしまったのでもありません。

イエスさまは、本当に十字架で死なれて、本当にお墓に葬られましたが、体を持って、本当に、死者の中から甦られたのです。だから今この時も、その復活の体で生きておられる。それが、わたしたち教会の、キリスト教の信仰です。

さて、そのように死者の中から復活したイエスさまは、弟子たちに現れて、40日間一緒に過ごされました。そして、天に上げられた、と聖書には書いてあります。

復活なさったイエスさまが、天に上げられた、というのは、どういうことなのでしょう。

まず、一つは、イエスさまが天の父なる神さまの右の座に坐られたということです。それは、罪にも死にも打ち勝ち、天も地も、命も死も、すべてを支配する方となられた、ということの意味しています。

そしてもう一つは、この地上から、イエスさまのお姿は見えなくなった、ということです。

もし、復活して生きておられるイエスさまが、そのまま地上におられたら、直接、話をして声を聞いたり、アイコンタクトを交わしたり、手をつないだりできたのかも知れません。この地上で、体を持って生きている、存在している、というのはそういうことです。

わたしも時々、お会いして、触れて、直接声を聞いて、本当に近く側にいて下さることが分かったらなあ、地上にいて下さったら良かったのになあ、と思うことがあります。

でも、体をもって生きておられるイエスさまが地上におられるということを、本当に具体的に考えるなら。わたしたちはまず、復活したイエスさまがいるところに会いに行かなければなりません。もし、今日の聖書に出て来るエルサレムだったら、とっても遠くて大変です。そして、たくさんの方がイエスさまに会いたいと詰めかけて、予約待ちになって、何年先まで予約がいっぱいだから、すぐには会えませんよ、なんてことになるかも知れません。

でも、イエスさまは天に上げられました。天というのは、神さまのご支配が満ちているところであり、時間も空間も越えているところです。復活なさったイエスさまは、その、天へ上げられた。だから、地上において、イエスさまのお姿は見えなくなったのです。

しかし、それは一方で、イエスさまが天におられるからこそ、わたしたちは時間も空間も

超えて、イエスさまといつでもお会いできる。イエスさまがいつでも、どこでも、わたしと共にいて下さる、ということでもあるのです。

そしてこのことは、イエスさまが天に上げられた後、神さまがわたしたちに聖霊を遣わして下さることによって、まさに実現したのです。

<聖霊によって>

復活のイエスさまは、天に上られる前に、弟子たちに約束をして下さっていました。

使徒言行録の1章4節にこうあります。「そして、彼らと食事を共にしていたとき、こう命じられた。『エルサレムを離れず、前にわたしから聞いた、父の約束されたものを待ちなさい。ヨハネは水で洗礼を授けたが、あなたがたは間もなく聖霊による洗礼を授けられるからである。』」

また、1章8節でも「あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる。」と言われました。

そして、ペンテコステの日、天に上げられたイエスさまの約束通り、聖霊が弟子たちに降ったのです。今日の聖書箇所にはこうありました。

「一同が一つになって集まっていると、突然、激しい風が吹く音が天から聞こえ、彼らが座っていた家中に響いた。そして、炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。すると、一同は聖霊に満たされ」た。

聖霊は、わたしたちをイエスさまの御許へと導いて下さるお方です。聖霊は、天におられるイエスさまと、地上に生きるわたしたちを、結び合わせて下さるお方です。

ですから、聖霊なる神さまによって、神さまに造られたすべての者は、世界中のどこにいても、どの時代に生まれても、天におられる、復活して生きておられる、お一人の救い主、イエスさまに出会うことができるのです。

<わたしたちの言葉で>

そして、今日の聖書の2章4節にはこうありました。「すると、一同は聖霊に満たされ、“霊”が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話しました。」

聖霊を受けた弟子たちが、色々な、ほかの国々の言葉で話し出したのです。

このペンテコステの日、エルサレムには、五旬祭のお祭りに参加するために、世界中の国々から人々が集まってきていました。そして、それらの人々はそれぞれに、聖霊を受けた弟子たちが、自分の遠い故郷の言葉を話しているのを聞いたのです。

5節以下にはこの時の様子がこう記されています。

「さて、エルサレムには天下のあらゆる国から帰って来た、信心深いユダヤ人が住んでいたが、この物音に大勢の人が集まって来た。そして、だれもかれも、自分の故郷の言葉が話

されているのを聞いて、あっけにとられてしまった。人々は驚き怪しんで言った。『話をしているこの人たちは、皆ガリラヤの人ではないか。どうしてわたしたちは、めいめいが生まれた故郷の言葉を聞くのだろうか。わたしたちの中には、パルティア、メディア、エラムからの者がおり、また、メソポタミア、ユダヤ、カパドキア、ポントス、アジア、フリギア、パンフィリア、エジプト、キレネに接するリビア地方などに住む者もいる。また、ローマから来て滞在中の者、ユダヤ人もいれば、ユダヤ教への改宗者もおり、クレタ、アラビアから来た者もいるのに、彼らがわたしたちの言葉で神の偉大な業を語っているのを聞こうとは。』

ここに出て来る国々は、当時、この聖書を読んでいる人たちからすれば、まさに世界のすべての国々です。そのあらゆる国の、あらゆる言葉が語られ、その中に自分の故郷の言葉を聞いた人は、あっけにとられた、というのです。

もしわたしたちも、遠い外国に行って、現地に住んでいる、日本に一度も来たことがないような人が急に日本語を話し出したら、びっくりするのではないのでしょうか。

でも、聖書が言いたいのは、聖霊が降ると外国語をペラペラ話せるようになる、ということではもちろんありません。大切なのは、11 節にあるように、色んな国から来た人たちが、「わたしたちの言葉で神の偉大な業を語っているのを聞こうとは」と言ったことです。

人々は、それぞれ自分の故郷の言葉で、同じことを聴いたのです。聖霊を受けた弟子たちが、色んな国の、バラバラの言葉で話したことの内容は、同じ一つのことだったのです。

それは、「神の偉大な業」。つまり、イエスさまの救いの出来事についてです。

十字架に架けられ、復活したイエスさまが、罪を赦して下さる救い主だ、ということです。

この、一つの、神の偉大な業を、聖霊を受けた弟子たちがさまざまな国の言葉で語り、それをあらゆる国々の、世界中から来た人々が、自分に分かる言葉で聞いたのです。

それが、ペンテコステの日に起こったことです。

このことは、イエスさまの救いの出来事が、特定の言葉や民族、一部の地域の人だけに知らされるのではなくて、どんな国の、どんな言葉の、どこにいる人にも届けられる、ということなのです。

聖霊なる神さまは、聖霊を受けた者たちに、イエスさまの救いの出来事を語る力を与えて下さいます。そして、世界中のあらゆる人々に、神の偉大な業を知らせ、イエスさまの救いを届けて下さるのです。

そして、聖霊なる神さまは、世界中の一人一人に働きかけて下さり、信仰を与え、救いへと招いて、天におられるイエスさまと出会わせて下さるのです。

このようにして、聖霊が降り、神の言葉が語られ、お一人の救い主、イエスさまを信じる人々がたくさん起こされていくのです。このようにして、神さまによって集められ、救われた者の群れである教会が生まれ、成長していくのです。

今日の聖書箇所が続きになる、2 章 14 節以下は、聖霊を受けた弟子のペトロが、イエス

さまの救いについて説教している様子が語られています。

そして、この説教をたくさんの人が聞き、信じて洗礼を受け、仲間になった、ということが書かれています。こうしてペンテコステの日、聖霊が降り、神の偉大な業が語られ、イエスさまを信じる人々の群れが誕生しました。

だから、聖霊が降ったペンテコステの日は、教会が誕生した日、とも言われるのです。

<わたしたちも聖霊を受けて>

そして、わたしたちもまた、このペンテコステの日に興された信仰者の群れに、教会に、続いて連なっているのです。この時から、聖霊によって語り続けられている偉大な神の御業を、わたしたちも今、聞いているのです。そして、聖霊によって、わたしたちも救い主イエスさまと出会い、洗礼へと導かれ、罪を赦され、神の民として集められているのです。

聖霊なる神さまは、今も教会に満ちて下さり、わたしたちに働いて下さいます。

イエスさまの時代から 2000 年たっても、エルサレムから遠く離れている、日本の、この宮崎の地でも。今日の、この礼拝でも。聖霊が働いて下さるから、わたしたちはイエスさまの救いのこと、罪の赦しと復活の命のこと、神の偉大な業のことを、わたしたちの言葉で聞くことができ、すべてを支配し今も生きておられる復活のイエスさまと、出会うことができるのです。

聖霊なる神さまによって、どの時代の人も、世界中のどこにいる人も、みんな、天におられる、復活したお一人のイエスさまに出会うことができます。イエスさまが、いつも、どんなときも離れずに、必ずわたしと共にいて下さることを、信じることができます。

そして、神さまによって集められ、聖霊によってお一人のイエスさまに結ばれた者たちは、イエスさまにあって、一つになることができます。

ペンテコステの日、聖霊が降ってから、天におられるイエスさまが再び来られる終わりの日まで。教会は、神さまに召し集められたわたしたちは、これまでも、これからも、聖霊によって、神さまの偉大な御業を告げながら、イエスさまの十字架と復活を証ししながら、復活のイエスさまと共に歩いていくのです。

【お祈り】

天の父なる神さま

わたしたちの罪を赦し、神さまと共に生きる者とするために、御子イエスさまを遣わして下さい。御子イエスさまが、十字架と復活の御業によって救いを成し遂げて下さったこと。聖霊なる神さまが働いて下さり、わたしたちに信仰を与え、イエスさまの救いの恵みに与らせて、神の子として下さること。三位一体の神さまの御業を心から感謝し、御名を褒めたたえます。

聖霊が注がれた恵みを深く覚えるこのペンテコステの日、どうか、聖霊によって、わたしたちがますます神さまの御言葉に深く耳を傾け、救いの御業をますます深く信じ、生きて共にいて下さる復活の主、より一層従う者となることができますように。

そして、わたしたちを、神の偉大な業を語る者、イエスさまを証しする者として、あなたが救おうとしておられる者のところへ遣わして下さい。そして、一人でも多くの者が恵みに応えて、御言葉を信じ、洗礼を受け、教会の群れに加えられますように。

主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン